

精神長期入院者の退院支援考察



発行所
名 寄 新 聞 社
本 社 〒096-0010
名 寄 市 大 通 南 2 丁 目
電 話 (01654) 代 表 ②1717
FAX ③2181
ホー ム ペー ジ
www.nayoro-np.com
下 川 支 局 〒098-1205
下 川 町 西 町 58 番 地
電 話 (01655) ④3545
FAX ④3545

名寄市看護部
2階北病棟チーム

患者の声を聴き研究 日本看護学会優秀論文に輝く

【名寄】名寄市立総合病院看護部（岩城美幸看護部長）2階北病棟所属看護師4人で組織する研究チームの研究論文「精神科長期入院患者の退院に関する自立への不安」が、第44回日本看護学会学術集会（精神看護）で優秀論文賞を受賞した。統合失調症発症から二十数年の入院生活を経て退院できた一人の患者にスポットを当て、退院へと結びつけた要因や自立に対する患者の心境を探り、長期入院患者の自立に向けた支援の在り方を考察した内容。今回の受賞は同院看護部初の快挙で、研究発表者の山田涼子さんは「根気強く、長い月日を重ねれば退院できること、また、患者さんは地域に出ることに相当な不安を抱えているというのを知ることができた。他の患者さんと接する上でも、学ぶことが多くあった」と語っている。

同病院看護部では毎 年に、各部署で看護研究 に取り組む、1月ごろ 院内看護研究発表会 1年の研究成果を披露



優秀論文賞の盾を手にする山田さん（右）と岩城看護部長

チームによる看護発表は、24年度に開催した院内研究発表で最優秀に選ばれた。その後、昨年9月に群馬県で開催された日本看護協会主催の25年度日本看護学会学術集会（精神看護）で発表。また、研究内容を論文にまとめて提出したところ、2階北病棟チームを含む53のチームが学会の論文として採択。その上、同病院2階北病棟チームの論文が最も高い評価を受け、優秀論文賞に

輝いた。研究チームは、同病院2階北病棟所属の看護師、山田さん、土田桂子さん、阿部加奈さん、笹井翔平さんの4人。論文作成には、名寄市立大学保健福祉学部看護学科の長谷川博亮准教授の協力を得てまとめた。研究テーマで山田さんは「精神科分野では家族と疎遠になってしまふ患者も多い。また、精神症状で家族による受け入れが難しく、長期入院となっている人が多い。私たちは退院に向けて支援するが、患者の中には退院したくないという気持ちも強く、ルールを守らなかつたら入院が長引くという思いがあった」と私たちには考えが、実際に退院してみてもそれがどうだったのか、そのときどう思ったのかなど、患者の思いを知ることが大切だと考え、研究テーマとした」と説明する。

二十数年という長期入院患者が退院する事例は少ないとのこと。山田さんは「長期入院する中で、私たちも退院は無理だろうという先入観を抱いていて、しかし、自立を目指す、金銭管理やパスの利用方法など、スタッフ皆さんと協力して支援し、振り出しに戻ることもしばあった。そして実際に退院し、入院中の取り組みは無駄ではなかつた

—と患者に言ってもらえた。根気強く、長い月日を重ねれば退院できること。私たちが想像している以上に、患者は地域へ出ることに不安を抱えていることを知ることができた。

他の患者と接する上でも、学ぶことがたくさんあった」とする。論文のまとめで、「退院支援は、退院後のイメージの具体化を図るため、多職種との連携、根気強い支援の

継続、拒否的な行動を「自分たちの行っている見守る姿勢、先入観を持たず患者と関わる必要がある。さらに、自立への過程で、看護師はその患者独自の自立を後押しする生活体験を見つければ、患者と共有し、不安の表出も含めて相談できるような関係をつくっていく重要性が示唆された」と結論付けている。

今回の最優秀論文賞に、岩城看護部長は張り进行たえている。

「自分たちの行っている見守る姿勢、先入観を持たず患者と関わる必要がある。さらに、自立への過程で、看護師はその患者独自の自立を後押しする生活体験を見つければ、患者と共有し、不安の表出も含めて相談できるような関係をつくっていく重要性が示唆された」と結論付けている。